## Global Challenge Forum 2025 Syllabus

Name of Professor	Professor Christopher SIMONS (Major: LITERATURE)
Course Title	Modern Magic: How Rhyming Makes Us Human
Description	Can 'real' magic still exist in the modern world? How did poets in the late nineteenth and early twentieth century use magical poetry to express their thoughts and feelings about the modern world, urban life, and love? What happens when the magic of poetry goes out of our lives? For example, what would be the consequences of a world in which humans no longer have the abilities to write poetry, lyrics, and music—if all of this work were done by Al? In this course, students can experience the 'magical poetics' of the poetry of W. B. Yeats, who used rhyme and meter (poetic rhythm) to cast spells of beautiful language. We will read magical poems about love, Irish myth and legend, and creativity. We will learn about the different kinds of magic Yeats studied to write his poems, including hermeticism (Neoplatonic magic from late classical Egypt) and Rosicrucianism (secret Christian magic from Renaissance England and Europe). We will discuss why 'magical poetics' is important in poetry, and in culture and society: how magical poetics can help us understand human nature, and help us engage with challenges in current society including love and relationships; gender equality; and mental health challenges like isolation and melancholy. Students will also have opportunities to write some poetry.
Learning Goals	1. To experience reading metrical, rhyming poetry in English; 2. To understand how the 'magic' of poetics is a combination of language, mathematics, and music—and therefore an important interdisciplinary foundation of liberal arts education; 3. To learn about the history of magic in European culture and how it relates to the 'real' magic of poetry and lyrics; 4. To think about how poetic magic sustains and enriches our lives; 5. To practice the magic of creativity by thinking in rhythm and rhyme.
Language	English
Maximum allowed	30
(Number of participants) Recommended grade	Grade 10 and 11 students
Teaching material	Selected poems from W. B. Yeats books including <i>The Countess Kathleen and Various Legends and Lyrics</i> (1892) and <i>The Wind Among the Reeds</i> (1899).
Homework / Pre-Assignment	Please read some of the course poems, in English or other languages, to get a feeling for the poetry. Why not start with 'The Fish', 'The Song of the Old Mother' and 'The Song of Wandering Aengus'? You can also read about W. B. Yeats's life.
1st Day (2025/12/13± 14:00-15:30) Title	W. B. Yeats, Poet and Magician
Contents	Who was William Butler Yeats, that shy young man interested in Renaissance poetry and Irish fairies, who would go on to win the Nobel Prize for Literature in 1923? In this class, we will learn about Yeats's life, and how he became interested in magic in his twenties, as a way of understanding the world and expressing himself about nature, love, and Irish myth in beautiful language. We will read some short Yeats poems together, and practice hearing their meter (rhythm) and rhymes. Students will read aloud together and discuss the poems' form, language and themes. How do these poems use magic and magical language to express their ideas? How are Yeats's ideas still relevant to current society and culture?
2st Day (2026/1/17± 14:00-15:30) Title	The Secret Rose: Rosicrucianism and Yeats's Rose Poems
Contents	In March 1890, Yeats joined the secret magical society The Order of the Golden Dawn. This society practiced magic based on Rosicrucianism—a kind of Christian spiritual magic that uses images from English literature, including the symbols of the rose and cross. Two years later, Yeats published a book containing a play, <i>The Countess Kathleen</i> , and poems about Irish myth and Rosicrucian magic. How did these two themes relate? In this class we will read poems from <i>The Countess Kathleen</i> and discuss how Yeats's poetry uses magic and myth to explore themes including love and gender roles.
3rd Day (2026/2/8± 14:00-15:30) Title	Yeats and the Sidhe (pronounced 'Shee'): Fairies and Spirits in <i>The Wind Among the Reeds</i>
Contents	The Wind Among the Reeds (1899) shows Yeats transforming his nineteenth-century style into a new modernism for the twentieth century. Yet even as Yeats's poetry developed a new directness and simplicity, it continued to use Rosicrucian magic and Irish myth to communicate its themes. In this class, we will read poems from The Wind Among the Reeds. We will learn about the Sidhe (pronounced 'Shee'), the Irish fairies or spirits, and how they influenced Yeats's love poems. Students can practice writing their own rhyming lines of magical poetry.
4th Day (2026/3/14± 14:00-)  **The finishing time varies depending on the course.  Title	Magical Poetics: Writing Together in Meter and Rhyme
Contents	The final class will give students the opportunity to review what they have learned about Yeats and magical poetics. Students will work individually or in groups to write a short poem on a modern theme that uses rhyme, meter, and Yeats's language of magic and myth. Students can share their work with the class, and receive feedback from fellow students and the course instructors.
References	Foster, R. F. W. B. Yeats: A Life. Volume 1: The Apprentice Mage. Oxford University Press, 1997.  Yeats, William Butler. The Poems of W.B. Yeats. Volumes 2–3. Edited by Peter McDonald, Routledge, 2020–2023. Longman Annotated English Poets.

## Global Challenge Forum 2025 シラバス

リティ研究を関係に学ぶ   Phtalis of Tunderstanding Other Culture" and "Multicultural Symbiosis" Learning Cultural Anthropology and Gender & Sexuality Studies Together	担当教員	加藤 恵津子 先生(担当メジャー:人類学、ジェンダー・セクシュアリティ研究、日本研究)
Anthropology and Gendric Secucitity Studies Togother	講義タイトル	
い隠してしまうものもあります。この違族講義では、先往民族と性的マイノリティをめぐる語りに着自し、落としてに落ちない力法を替金人と一般に探します。	講座タイトル(英文)	
がつ、2)文化人類学とジェンダー・セクシュアリティ研究の基礎を同時に学ぶことで、その相乗効果を 感じていただければ幸いです。	講座概要	い隠してしまうものもあります。この連続講義では、先住民族と性的マイノリティをめぐる語りに着目
次の	学修目標	かつ、2) 文化人類学とジェンダー・セクシュアリティ研究の基礎を同時に学ぶことで、その相乗効果を
対象学年 使用テキストなど 時間外学習の内容	開講言語	日本語
特になし   特になし   特になし   特になし   対して文献を読んだり、調べ物をしたりしてください。最後の授業の前には、ミニ免表の準備をしていただきます。	定員	30名
# 2 回り	対象学年	高校1,2年生
の準備をしていただきます。  「文化」とは?「異文化」とは?「多文化」とは?:文化人類学とその先へ  「文化」とは?「異文化」とは?「多文化」とは?:文化人類学とその先へ  タイトル 内容  「男女共同参画」?「LGBTQ理解」?:ジェンダー・セクシュアリティ研究が目指すもの  この回では、私たちの日常と切っても切れないジェンダーやセクシュアリティ研究が目指すもの  この回では、私たちの日常と切っても切れないジェンダーやセクシュアリティ研究が目指すもの  この回では、私たちの日常と切っても切れないジェンダーやセクシュアリティについて考えます。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究が目指すもの  この回では、私たちの日常と切っても切れないジェンダーやセクシュアリティについて考えます。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究という学問がどのように生まれ、発展し、かつ誤解されているか、それはなぜなのかを考えます。  3回目 (2026/2/8± 14:00-15:30) タイトル 内容  第4回 (2026/3/14± 14:00-16:00) タイトル 内容  最終回では「異文化」「理解」「多文化共生」すればOK?:私が気になるケース  最終回では「異文化」「理解」「多文化」「共生」という表現に立ち返り、私たちが何に気を付けたらよいかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有していただけたら嬉しいです。	使用テキストなど	特になし
(2025/12/13± 14:00-15:30) タイトル	時間外学習の内容	
「文化」を研究する学問として100年以上の歴史を持つ文化人類学の、基本的な考え方や限界について考えます。   「男女共同参画」?「LGBTQ理解」?:ジェンダー・セクシュアリティ研究が目指すもの (2026/1/17± 14:00-15:30) タイトル	1回目 (2025/12/13± 14:00-15:30) タイトル	「文化」とは?「異文化」とは?「多文化」とは?:文化人類学とその先へ
(2026/1/17± 14:00-15:30) タイトル 内容  この回では、私たちの日常と切っても切れないジェンダーやセクシュアリティについて考えます。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究という学問がどのように生まれ、発展し、かつ誤解されているか、それはなぜなのかを考えます。  3回目 (2026/2/8± 14:00-15:30) タイトル 内容  この回では、民族的マイノリティと性的マイノリティを賛美すること:どこが問題?  この回では、民族的マイノリティと性的マイノリティを賛美する人もいます。マジョリティ側には、マイノリティの存在を認めない人もいれば、マイノリティを賛美する人もいます。この両方、何が問題なのでしょうか?  第4回 (2026/3/14± 14:00-16:00) タイトル 内容  最終回では「異文化」「理解」「多文化共生」すればOK?:私が気になるケース  最終回では「異文化」「理解」「多文化」「共生」という表現に立ち返り、私たちが何に気を付けたらよいかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有していただけたら嬉しいです。	内容	「文化」を研究する学問として100年以上の歴史を持つ文化人類学の、基本的な考え方や限界について考
ジェンダー・セクシュアリティ研究という学問がどのように生まれ、発展し、かつ誤解されているか、それはなぜなのかを考えます。         3回目 (2026/2/8± 14:00-15:30) タイトル       マイノリティを認めないこと、マイノリティを賛美すること:どこが問題?         内容       この回では、民族的マイノリティと性的マイノリティの共通性について考えます。マジョリティ側には、マイノリティの存在を認めない人もいれば、マイノリティを賛美する人もいます。この両方、何が問題なのでしょうか?         第4回 (2026/3/14± 14:00-16:00) タイトル       「異文化理解」「多文化共生」すればOK?:私が気になるケース         内容       最終回では「異文化」「理解」「多文化」「共生」という表現に立ち返り、私たちが何に気を付けたらよいかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有していただけたら嬉しいです。	2回目 (2026/1/17± 14:00-15:30) タイトル	「男女共同参画」?「LGBTQ理解」?:ジェンダー・セクシュアリティ研究が目指すもの
(2026/2/8± 14:00-15:30) タイトル 内容  この回では、民族的マイノリティと性的マイノリティの共通性について考えます。マジョリティ側には、マイノリティの存在を認めない人もいれば、マイノリティを賛美する人もいます。この両方、何が問題なのでしょうか?  「異文化理解」「多文化共生」すればOK?:私が気になるケース  (2026/3/14± 14:00-16:00) タイトル 内容  最終回では「異文化」「理解」「多文化」「共生」という表現に立ち返り、私たちが何に気を付けたらよいかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有していただけたら嬉しいです。	内容	ジェンダー・セクシュアリティ研究という学問がどのように生まれ、発展し、かつ誤解されているか、そ
第4回	3回目 (2026/2/8± 14:00-15:30) タイトル	マイノリティを認めないこと、マイノリティを賛美すること:どこが問題?
(2026/3/14± 14:00-16:00) タイトル 内容 最終回では「異文化」「理解」「多文化」「共生」という表現に立ち返り、私たちが何に気を付けたらよいかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有していただけたら嬉しいです。	内容	マイノリティの存在を認めない人もいれば、マイノリティを賛美する人もいます。この両方、何が問題な
いかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有していただけたら嬉しいです。	第4回 (2026/3/14± 14:00-16:00) タイトル	「異文化理解」「多文化共生」すればOK?:私が気になるケース
参考文献 授業の中でいろいろ紹介 I. ます.	内容	いかをあらためて考えます。受講生の皆さんには、自分が気になる具体的な事例や場面について、共有し
		授業の中でいろいろ紹介します。

## Global Challenge Forum 2025 シラバス

担当教員	鏑木崇史先生(担当メジャー:情報科学)
講義タイトル	Alって何だろう?仕組み・社会・そして未来
講座タイトル(英文)	The World of Al: Mechanisms, Society, and the Future Ahead
講座概要	私たちの身の回りで急速に広がる人工知能(AI)は、文章を作成したり、画像を描いたり、さらには会話
斯 <u></u>	をしたりすることができるようになりました。しかし、AIは本当に「知能」を持っているのでしょうか。
	この講義では、まずAIの仕組みや生成AIの原理をわかりやすく解説し、その利点と限界を体験的に学びま
	す。次に、著作権やプライバシーといった社会的課題や、SNSや買い物サイトでの「おすすめ機能」がも
	たらす便利さと情報の偏りを取り上げ、AIが社会に与える影響を考えます。さらに、実際にLINEボットを
	作成して、AIを自らの工夫で活用する体験を行います。最後に、グループディスカッションを通じて、AI
	と共に生きる未来をどう描くかを考え、学びを振り返ります。
学修目標	AIの基本原理(LLM・生成AI)を理解し、AIと社会の関わり(ELSI・規制・リスク)を考察できる。
	応用技術(推薦システムとエコーチェンバー)を理解し分析できる。実践的体験(LINEボット制作)を通
	じてAI活用力を養う。
開講言語	日本語
定員	30名
対象学年	高校1,2年生
使用テキストなど	なし
時間外学習の内容	第4回の前に60分程度の準備
1回目	
(2025/12/13± 14:00-15:30)	「Alって何?未来をつくる機械の頭脳
タイトル	
内容	人工知能の歴史や基本的な仕組みを学び、生成AIがどのように文章や画像を作っているのかを探ります。
	実際にChatGPTを使って質問や要約を試すことで、その便利さや限界を体験します。Alはあたかも理解し
	ているかのように答える一方で、事実と異なる情報を示すこともあり、万能ではないことを理解します。
	授業の後半ではグループに分かれ、体験を通じて気づいたAIの特性を話し合い、最後にクラス全体で意見
	を共有します。
2回目	
$(2026/1/17 \pm 14:00-15:30)$	「AIと社会の約束ごとと情報の偏り
タイトル	
内容	AIが社会にもたらす利便性と同時に生じるリスクを取り上げ、著作権や個人情報、プライバシーの侵害と
	いった具体的な課題を考えます。また、ネットショッピングやSNSで使われるリコメンデーションの仕組
	みを紹介し、情報が人に合わせて出されることで便利さが増す一方、偏った情報ばかりが届く「エコー
	チェンバー」現象も説明します。グループ討論では、AIが日常生活や社会に関わるときに生じる問題を整
	理し、生活者としての視点からAIとの付き合い方を議論します。
3回目	
$(2026/2/8 \pm 14:00-15:30)$	オリジナルのLINEボットを作ろう!
タイトル	
内容	LINEとAlをつなげて、自分だけのチャットボットを作る実習を行います。講義内ではサンプルのボットを
/** A 🗆	作成し、そのボットをベースに各自でオリジナルのチャットボットを作成します。
第4回 (2026/2/14 + 14.00 16.00頃)	AI時代に仕まる私たれ、振り気りと土まった特殊
(2026/3/14土 14:00-16:00頃)	AI時代に生きる私たち一振り返りと未来への対話
タイトル 内容	第3回の内容をふまえて作成したオリジナルのボットを紹介し合い、相互に体験することで、AIを自分の
r y 台	
	工夫でどう役立てられるかを体感します。その後、グループディスカッションで「ボットをもっと便利に
	するにはどうすればよいか」「将来どんな場面で活用できそうか」を話し合い、AIを活かすための発想を 広げます。これまでの党がを振り返り、AIの仕組入め社会。の影響、実際の体験を通りて考えたことをま
	広げます。これまでの学びを振り返り、AIの仕組みや社会への影響、実際の体験を通して考えたことをま
<u> </u>	とめる回です。
参考文献	